

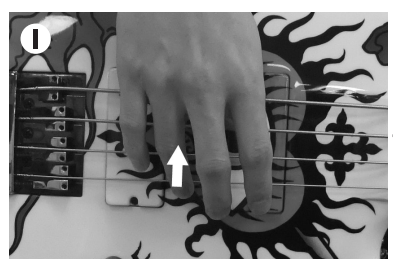
注意点1



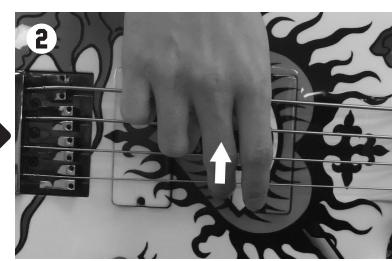
右手

**中指を滑らかに動かして
1&2弦を効率良く鳴らそう**

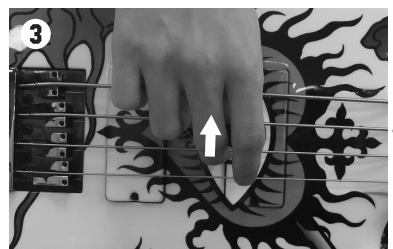
ここでは、3フィンガーでの中指レイキングを練習しよう。メイン・フレーズは、1拍内の4音を1弦(薬指)→1弦(中指)→2弦(中指)→2弦(人差指)の順で弾きながら(写真①~④)、徐々にハイ・ポジションからロー・ポジションへ移動していく。まずは右手の動きに慣れることが大切なので、左手のポジションを固定して、このレイキング・パターンをくり返し練習してみよう。右手が固まってきたら、左手を合わせるのだが、事前にポジションを確認しておくとい。ちなみに、このフレーズは、Gメジャー・スケール(=Eナチュラル・マイナー・スケール)によって構成されている。



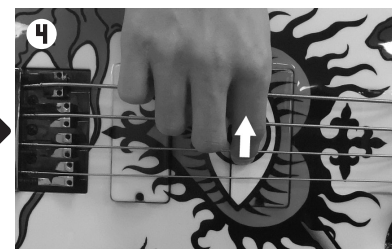
① 3フィンガーでの中指レイキング。薬指から始まり……



② 続いて中指でピッキング。その勢いのまま……



③ 2弦を中指で弾こう。



④ 最後に、人差指で2弦をピッキングする。

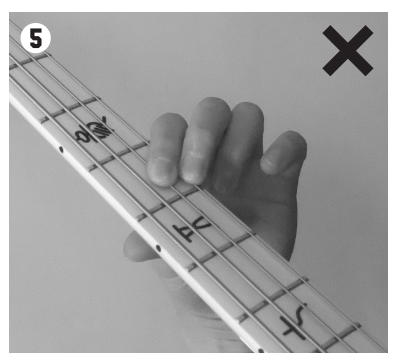
注意点2



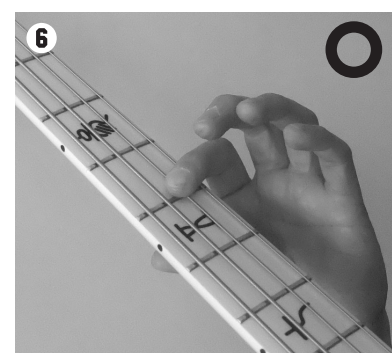
左手

**セーハを活用して
弦移動のエコ化を図れ!**

梅フレーズは、中指レイキングはもちろん、左手の押弦にも注意する必要がある。1音ずつ弦移動していくが、1弦と2弦を異なる指で押さえてしまうと、どうしても無駄な動きが増えるのだ。そこでセーハを活用して、スムーズに弦移動を行なえるように心掛けてみてほしい(写真⑤&⑥)。このように左手の動きを減らすことができると、右手の動きにより集中できるというメリットも生まれる。竹フレーズも中指のセーハを使うが、こちらはすべてナチュラル・ハーモニクス【註】となるため、ハーモニクス・ポイントに触れる&離れるということスピーディに行なってみてほしい。



⑤ 1弦4fを中指で押さえると、無駄な動きが増えるので、ノイズも発生しやすい。



⑥ 1&2弦は人差指のセーハで押さえる。次の中指のセーハも意識しておくとい。

~コラム15~

将軍の戯れ言

ベースの弦の材質は、大きく分けるとステンレスかニッケルになる。ただ、同じ材質でも、メーカーによってキャラクターが大きく変わるものだ。筆者は、現在ロトサウンドのニッケル弦を使っている。ロトサウンドはステンレス弦が有名なメーカーだが、ニッケル弦の方がテンションが弱く、高速ピッキングやチョーキング&ビブラートなどが演奏しやすい。ちなみに、タッピングを綺麗に聴かせるためには、弦のブライト感が大切(=新品がよい)なので、筆者はかなり頻繁に弦を交換しているぞ。読者のみんなも、ぜひたくさんの弦を試してみて、自分に合った一品を見つけ出してほしい。

**著者の超絶プレイを支える貢献者
愛用ベース弦について語る**



筆者が愛用しているロトサウンドのRB-45。ゲージは、.045/.065/.085/.105となっている。

【ナチュラル・ハーモニクス】5フレットや7フレット上などのハーモニクス・ポイントに軽く触れて、ピッキング後に素早く指を離すことで、実音より高い倍音を出す奏法のこと。